

実践報告

札幌市立信濃小学校

(1) 研究内容

研究課題：「男女平等教育」

- 男女平等教育のカリキュラムへの位置付けの確認
- 男女平等教育を視点に当てた授業実践
- 男女平等教育の理解につながる教職員向けの研修

(2) 実践の内容

① 男女平等教育に関わるカリキュラムへの位置づけの確認

道徳	2 主として他の人とのかかわりに関すること
1・2年	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる温かい心で接し、親切にする。 (3) 友達と仲よくし、助け合う。
3・4年	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。 (3) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合う。
5・6年	(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 (3) 互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。

学年	教科	単元・題材名
1	生活	じぶんでできるよ
4	体育(保健)	育ちゆく体とわたし「おとなに近づく体」
5	理科	生命のたんじょう「男女の体のつくりの特ちょう」
	体育(保健)	体育(保健) 心の健康「性に関わる体や心の悩み」
	家庭	わたしと家族の生活 やってみよう家庭の仕事
6	社会	私たちのくらしと日本国憲法 世界に歩みだした日本

② 男女平等教育を視点に当てた授業実践

2学年道徳 主題名「男の子 女の子」

○学習のねらい

男女のイメージに捉われず、一人一人に好きなことや得意なこと、やりたいことがあることを理解し、互いを認め合う態度を育てる。

○学習内容

遊び、家庭の仕事、職業について、「男の子(人)、女の子(人)、どちらがすることかを考えよう」という活動や話し合いから、『みんながしている』『決まりはない』といった実感を持ち、男女ではなく、一人一人の違いやよさがあることに気付かせていく。



③ 男女平等教育の理解につながる教職員向けの研修

研修テーマ「男女平等を目指す社会における 教育の果たす役割」

講師：笹谷春美（北海道教育大学名誉教授 北海道女性協会会長）

講演内容

- ・ 人権の尊重なくして男女平等はありえない。
- ・ 人権とは「人間である」ということだけを条件に認められる権利。
- ・ 男女平等社会の実現のために、教師は次世代のファシリテーターとして、教師自身の男女平等意識、ジェンダー観を磨く必要がある。
- ・ 隠れたカリキュラムへの留意が必要である。「社会科歴史」では、男性の扱いが多く、女性や子どもに関する記述が少ない。また、「家庭科」では家庭の様子の挿絵で、母親が台所で仕事をし、父親が新聞を読む姿が描かれている。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- ・ 教職員にとって男女平等教育を考えるよい契機となった。男女平等に関わるカリキュラムへの位置付けの確認をしたことで、「男女は平等である」ことをどの学年もしっかり指導できることが分かった。子どもたちの男女に関する平等観を発達段階に応じて小学校生活の6年間で培える見通しがもてた。
- ・ 授業実践を通し、「男女で分けるという考え方ではなく、一人一人が個性をもった大切な存在である」「男女どちらでも様々なことができる」「互いを認め合い、みんなと仲良くしたい」「人権尊重が基本である」という意識が高まった。
- ・ 北海道教育大学名誉教授の笹谷春美氏を招き、教員研修を行うことができた。カリキュラムを見直し、授業実践するだけでなく、専門的な見地からお話を聞くことができ、改めて男女平等の考え方を深めることができた。特に、「隠れたカリキュラム」の話題が印象深く、教師の何気ない一言でも、それが子どもたちの価値観を形成していくことにつながるので、まず教師自身の男女平等意識を見直す必要があることを再確認できた。

② 課題

- ・ 男女平等の授業研究を2年生のみで行ったので、他の学年でも実践できれば、全校での男女平等教育をより推進できたと思う。
- ・ 今後は男女差別につながる「隠れたカリキュラム」について研究を深め、具体化していきたい。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 子どもたちの男女平等意識を高めるためには、子どもたちのロールモデルである教師自身がジェンダー観を磨く必要がある。
- ・ 「隠れたカリキュラム」を全校で確認し、男女差別につながる環境や言動をなくすことで、子どもたちの男女平等意識を高めることができる。